

学校の在り方地区検討委員会（中南地区）

【第4回】概要

日時：令和8年5月14日（木）

14：00～16：30

場所：弘前パークホテル4階ラ・メエラ

<出席者>

森 委 員、山 内 委 員、小山内敏治委員、大滝委員、前田委員
工藤義明委員、小山内宏太委員、浅利委員、棟方委員、増川委員
小田桐委員、菅原委員（進行役）

代理

金枝氏（品川委員代理）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

参考：学校配置シミュレーション

ア：定員割れとなっている高校の学級減で対応した場合

イ：1学級の職業学科を除いた高校の学級減で対応した場合

ウ：黒石高校・柏木農業高校・弘前中央高校・弘前南高校を除いた高校の学級減で対応した場合

エ：普通科及び専門学科で1学級ずつの学級減で対応した場合

オ：弘前実業高校に農業科を設置し、3学級の学級減で対応した場合

カ：弘前高校と弘前南高校を統合し6学級規模の統合校を配置するとともに、弘前中央高校を6学級規模で対応した場合

○ 青森県立高等学校魅力づくり推進計画において、重点校・拠点校制度及び地域校制度は廃止したのか。

→（事務局）どちらの制度も廃止した。令和10年度以降は、自校の生徒の学習ニーズに応えるための各校の主体的な連携・協働へと発展させることとした。

3 意見交換

（1）学校の在り方に関する主な意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、次のような質問はあったが、意見はなく、承認された。

○ 農業高等専門学校は設置するのか。

→（事務局）農業高等専門学校の設置の検討主体は知事部局であることから、本委員会の意見については知事部局にも提供している。

(2) 全日制課程の学校規模・配置について

① 学校配置シミュレーション

◇ ア～エの案に関する意見

- ウの案について、中学校現場から納得は得られない。倍率以外で学級減の対象校を決定する場合、当地区の将来像や教育の方向性を示す必要がある。

- 進学を念頭におくと、中学生は普通科を選択する傾向にある。さらに上を目指す子どもたちにとって目標となる弘前高校は学級規模を維持した上で、一定の倍率を維持させる必要がある。また、当地区の産業構造を踏まえると農業の学びは残す必要があり、中学生が集まりやすい弘前実業高校に農業科を設置することは賛成である。
一方で、アの案については、柏木農業高校が2学級規模となることから、部活動等の教育活動への影響が懸念される。

- エの案については、学級減で対応するその他のシミュレーションを包含するような意見であることから、報告書に掲載する必要はないと考える。

- アの案を掲載することは反対である。直近の倍率だけではなく、これまでの高校再編の経緯も踏まえる必要がある。青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画において黒石高校と黒石商業高校を統合し、黒石商業高校が閉校となったことで市の活力が一変した。
現在、黒石高校普通科は定員割れを起こしているが、そのことにより、1学級当たりの人数を減らして少人数指導を実施することができている。このことは、個に応じたきめ細かな指導につながっていることから、生徒や保護者からの満足度が高い。
また、黒石高校看護科は、専攻科までの5年一貫教育で看護分野に関する人材を育成する役割を担っている。このような5年一貫教育を行っている看護科を有する高校は、北東北では黒石高校のみである。
さらに、黒石高校は近隣市町村からも生徒が集まっている。
今後数年間同じような状況が続けば学級減となっても仕方ないが、現段階で黒石高校を学級減とすることは市民からの反発が予想される。

- 県教育委員会が倍率や入学者数などで学級減を判断する基準等を設定すべきであり、そうすることで自治体や地域は高校の魅力化に積極的に関わってくる。

- 藤崎町の中学生にとって弘前南高校は通学環境が悪く、また、弘前高校、弘前中央高校に比べて、倍率が低いことから、学級減の対象とするべき。

- 弘前市内の県立高校の学校規模だけを維持するのではなく、地区内のバランスを考慮しながら学級減等を検討すべき。
- こどもたちの未来を考えて学校規模・配置について検討すべき。
- イの案とウの案は報告書に掲載すべきではない。

進行役から、ウの案を報告書へ掲載することを委員へ投げかけたところ反対の声があったため、議論を継続した。

- ウの案だけを掲載するのではなく、ウの案は必ず残してほしいとの意見である。
- ウの案では弘前高校が学級減の対象となるため、賛成できない。
- イの案を基本とし、黒石高校を学級減の対象としないことを意見として付けば良いのではないか。
- 農業高校は当地区に必要であることから、小・中学校から農業に関わる教育の仕組みを考えていく必要がある。
- 柏木農業高校は1学科1学級であることから、学びを維持させることも大切である一方で、倍率も考慮しながら検討する必要があるため、アの案を原案で掲載するとともに、イの案に黒石高校を学級減の対象としないと意見を付して掲載してはどうか。

進行役から、アの案とイの案を基本としながら、弘前高校と黒石高校を学級減の対象から除く2案を報告書へ掲載することを委員へ投げかけたところ承認された。

また、アの案について、商業科及び家庭科で少人数学級編制を実施した場合は柏木農業高校を学級減すること、イの案について、商業科及び家庭科で少人数学級編制を実施した場合も含め、これまでの意見を踏まえ県教育委員会で学級減の対象校を決定することとしてよいか委員へ投げかけたところ承認された。

◇ オの案に関する意見

- 弘前市に農業科1学級を設置することはありがたいが、再度設置する場合には、弘前実業高校農業経営科を閉科したことは県の見通しが甘かったことを認めた上で、設置の理由を説明する必要がある。

- 弘前実業高校農業科の設置については、第2回・第3回の会議において、当地区の農業の担い手を育成する観点から賛同の声が多かった。また、ソフト面でもハード面でも対応可能であることも踏まえ賛同する。
- 弘前実業高校に農業科を設置し、柏木農業高校を学級減することは、柏木農業高校のさらなる小規模化を示唆しているため、この案には賛成できない。
- これまでの高校再編の経緯や柏木農業高校の伝統と実績を踏まえると、弘前実業高校農業科の設置については反対である。
- 県教育委員会は柏木農業高校へ集約するために弘前実業高校農業経営科を閉科したが、実際にはうまくいっていない。当地区で農業人財を育成したい気持ちはみんな一緒であり、そのような意見が地域からも出ているのであれば、弘前実業高校に農業科を設置してもよいと考える。弘前市は農業が盛んであることから、弘前実業高校に農業科を設置し、リンゴ栽培をはじめ様々な農業教育を実施していけばよいのではないかと考える。
- 農業教育については、生徒の変容が期待できるため、存続が必要である。
また、弘前実業高校は商業科と家庭科が併置されており、農業科を設置することで、学科間連携を通じた商品開発やマーケティング、食農などの学びが充実する。さらに、近隣には弘前大学や柴田学園大学等も設置されていることから、高大連携の機会を創出しやすいほか、弘前市内には農業関連の企業や団体等が多いことから、地域連携についても充実させることができる。
柏木農業高校については、当地区から絶対になくすことができない高校であるが、地区全体のことや将来のことを考慮すると、弘前実業高校に農業科が必要になってくると考える。

進行役から、オの案を報告書へ掲載することを委員へ投げかけたところ承認された。

また、商業科及び家庭科で少人数学級編制を実施した場合も含め、これまでの意見を踏まえ県教育委員会で学級減の対象校を決定することとしてよいか委員へ投げかけたところ承認された。

◇ カの案に関する意見

- 10年先を見据えると統合も必要であり、このような考えは必要であると考えられる。当地区は、県立高校だけではなく私立高校も多く、県立高校の魅力を高めていかなければ、私立高校への入学者数はさらに増えていくことが想定される。
よって、生徒の学力を高めるためには、弘前高校と弘前南高校を統合し、統合校と弘前中央高校の2校で切磋琢磨するのがよいのではないかと考える。

○ カの案については、現実離れしすぎているため掲載しない方がよい。

進行役から、カの案を報告書へ掲載しないことを委員へ投げかけたところ承認された。

② シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

(3) 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

(4) その他の意見

○ 情緒障がい学級を特別支援学校の高等部に設置することも考えられる。

本日の意見交換を踏まえ報告書を整理し、委員へ書面で確認した後、最終的な確認は進行役一任とすることで委員から承認された。

4 閉会